

開催日

2019年 4月 20日^土
13:30 ~ 17:00

会場

大手町ファーストスクエア
カンファレンス (Room A)

建築からの多様な支援

— 重度への建築からの提案 —



プログラム ※プログラム・時間配分は予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

- 13:00 ~ 13:30 <受付>
- 13:30 ~ 14:15 **第1部** 施設入所 —特性・ライフステージの変化に対応した建築的支援—
- 14:15 ~ 15:00 **第2部** グループホーム —重度・高齢化に対応したグループホーム—
- 15:00 ~ 15:10 <休憩>
- 15:10 ~ 15:55 **第3部** 通所事業所 —在宅生活を継続するための様々な取組み—
- 15:55 ~ 16:35 **第4部** すまいのディテール
- 16:35 ~ 17:00 質疑応答・意見交換

講師



岩崎 直子
一級建築士

主な実績

平安徳義会乳児院 / むとべ翠光園
第二竹の里ホーム / 特養 第二天神の杜
特養 橘 / 特養 豊の郷 / GH響・奏



竹之内 啓孝
一級建築士
日本感覚統合学会
会員

辻外科リハビリテーション病院 /
田辺病院 / 特養 鳥羽ホーム /
あまだ翠光園改修 / 桃仁会サ高住 /
デイサービスみやまぎ



清水 大輔
一級建築士

あゆみが丘学園増改築 / 丹後中央病院 /
障害福祉センターあらぐさ増築 /
京都木材会館



【セミナー内容】 テーマは「建築からの多様な支援」

第1部 施設入所 —特性・ライフステージの変化に対応した建築的支援—

障害者支援施設において、年齢を重ねていく利用者に対し、建築が建設当初のままでは住みにくくなっています。また、新たに住まれる利用者の障害特性に対し、建物のつくりがそぐわないということも、支援が困難になる理由の一つです。それを解消するために様々な改修が行われています。環境に適応することが困難な「重度」の利用者に対し、特性やライフステージに合った建築を検討した事例をご紹介します。

■ 重度身体障害の利用者と支援者のための改修提案

- ✓ 特性ごとにエリア分けした建設当時のレイアウトから、利用者の活動・見守りを重視した集約型レイアウトへ
- ✓ 皆が毎日入浴できるよう、入浴動線を検討ワンルームの浴室空間を実現



改修により日中を過ごす場所を目的別に設けたプラン



食堂をダイニングに移し元食堂を日中の居場所としてテスト運用

■ 高齢知的障害者のためのこれからの住まいのプロトタイプ提案

- ✓ 閉鎖型食堂から開放型食堂にむけてのテスト運用による検証
- ✓ 高齢化に伴う生活の変化
— 食堂・ダイニングの一体化改修 —



支援室を拡張し喫茶カウンターを設置ダイニングを見守れるよう改修



利用者の反復運動により剥がれた壁の改修を居ながら改修で行った事例

■ 強度行動障害 特別支援ユニットでの建築的支援

- ✓ 空間の構造化と利用者の居室で行った建築的工夫の成功事例
- ✓ 入居後5年で起こった予期せぬ破壊と改修対応について

第2部 グループホーム —重度・高齢化に対応したグループホーム—

入居施設からの移行先の一つとして重度の方が入居できるグループホームが求められています。一方、古い公団や一軒家を利用したグループホームでは、入居者の「重度化」「高齢化」により身体の状態と建物がそぐわなくなり、生活を続けることが出来なくなっている方も多くいます。ここでは、「重度・高齢化」した入居者がグループホームで生活出来るように計画した2つの事例と、地域と積極的に関わりを持つように計画した2つの事例をご紹介します。

■ 重度対応グループホーム 響・奏

- ✓ すべて入居者が介助が必要な人達のグループホーム
- ✓ 見守り、車いす利用がしやすいゆりのある広さの食堂
- ✓ 介助無しでも自由に外の空気を感じてもらえる中庭
- ✓ 全介助を前提とした浴室、トイレ



重度対応型ケアホーム 響・奏



Aさんに合わせ食堂と一体的に見守りができる居室

■ 2人の入居者に合わせた重度対応型グループホーム

- ✓ Aさんに合わせた食堂と一体的に見守りができる居室
- ✓ Bさんの体の状況に合わせた床走行リフトの検証



地域とゆるやかにつながる「なかみち」を持つグループホーム 菜の花



地域の方が農作業の合間に休憩できる地域交流スペースを持つグループホーム リアン

■ 地域との関わりを考えたグループホーム

- ✓ 心地のよいホームをめざして作られた グループホーム 菜の花
- ✓ 静かに落ち着いた暮らしができる地域交流スペースを持つグループホーム リアン

第3部 通所事業所 —在宅生活を継続するための様々な取組み—

「普段から通いなれた場所にショートステイをつくってほしい」
 「医療ケアが必要になっても安心して日中を過ごせる場所がほしい」
 日中を過ごす場への要望が変化してきています。
 第3部では3つの事例で考えた建築の工夫をご紹介します。

■ 災害時の避難と在宅のレスパイトを考えた生活介護事業所

- ✓ 利用者、家族、スタッフが3日間避難できる備蓄倉庫を備えたスペースを計画
- ✓ 重度の方の受入れも想定してショートステイのレイアウト、内装、設備を計画



家族も一緒に避難できる高天井のスペースを2階に計画した生活介護事業所



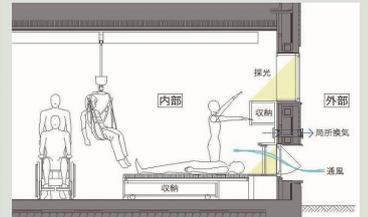
通所に通う児童が将来自分の働く姿をイメージしやすいよう1階に就労の場を計画

■ 児童から成人まで幅広い支援を提供する通所複合施設

- ✓ ショートステイを重度とそれ以外のゾーンに分けて重度ゾーンの居室は仮眠室から直接見守りができるように計画



活動と休養の日課に合わせて二つのスペースに分けて計画



寝たきりの方用に窓、照明をデザインした休養（置）スペース

■ 重症心身障害者の日課に合わせて二つのスペースに分けて計画した生活介護事業所

- ✓ リクライニング車椅子の姿勢に合わせた天井、照明、手洗いの計画
- ✓ 寝たきりの状態で光・風を感じられる工夫、まぶしくない照明の計画
- ✓ オムツ交換用に個別の収納、照明、換気扇を工夫した畳スペースの計画

第4部 すまいのディテール

■ 強度行動障害の特性への工夫

- ✓ 叩かれても壊れにくい堅牢建具
- ✓ 割れにくいガラス ✓ 強度及び遮音性を考慮した壁



生活感+清潔を両立する水洗いできる居室



流水実験を重ねて開発した失便処理装置

■ 衛生面への工夫

- ✓ 床に落ちた利用者の失便をそのまま床で流せる失便処理装置
- ✓ 食堂、トイレの清掃性を向上させる巻上げ巾木
- ✓ 衛生面を考慮したトイレ及び浴室の仕上げ
- ✓ 利用者の特性に合わせた洗面、手洗い



重すぎず壊れにくい建具をつくるための実験



便座に座ったまま使える可動手洗いの試作実験

■ 安全性への工夫

- ✓ 転倒へのリスクを考慮した床材
- ✓ 窓から利用者が出て行くことへの対策
- ✓ 水へのこだわりが強い方への給水のコントロール
- ✓ 給湯設備のやけど対策 ✓ 屋上の落下防止対策

■ 感覚への工夫

- ✓ 冷たさを感じにくい床材 ✓ 音に配慮した天井材
- ✓ 浴室の暖房 ✓ 照明の調光、調色 ✓ 湿度調整 ✓ 臭気対策



強度行動障害を持つ方のワークスペース



利用者の状態の変化に合わせて部屋と一体化できる居室内トイレ

■ 役に立つ設備

- ✓ 床走行リフトを考慮した設計
- ✓ 機械浴槽の選び方 ✓ 取り外しができるナースコール

知的障害者のすまいとゆう建築設計の取組み

2017年に「建築も、支援の一つ」をテーマに「第2回知的障害者のすまいを考える」セミナーを開催してから2年の間にさまざまな反響、ご相談をいただきました。

今回とりあげるテーマは「重度化」です。「重度対応」は施設入所やグループホームの計画では建築対応の内容を決める大きな要因です。昨今では生活介護事業所などの「日中活動の場」や併設するショートステイでも「重度対応」が求められてきています。

これは、在宅の障害者へのサービス提供の裾野が広がってきたことを意味するとともにより広範な「重度対応」を考えなければならないということです。

この度開催する「第3回知的障害者のすまいを考える」セミナーでは、ゆう建築設計内の知的障害者のすまい検討チームが広範に調査、研究、意見交換しながら支援者のみなさんと考えた重度対応の最新事例をご紹介します。

全国の支援に関わる事業者の方、支援員の方、ご家族の方がセミナーをきっかけにご自身の携わるすまいや日中過ごす場をよりよく作りあげていく一助になればと思います。

どうぞ、気軽にご参加いただき忌憚ないご意見をお聞かせください。会場でお待ちしております。

2019年3月
株式会社ゆう建築設計



2017「第2回知的障害者のすまいを考える」セミナー会場風景

ゆう建築設計では、各分野別にセミナーを開催しています。

- 社会福祉法人向けセミナー
- 高齢者福祉事業者向けセミナー
- 医療法人向けセミナー
- 精神科病院向けセミナー
- 透析医療機関向けセミナー

株式会社 ゆう建築設計

本社・京都事務所 担当：清水
TEL 075-801-0022

● E-mail: eu-seminar-tokyo@eusekkei.co.jp

本社・京都事務所 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町617番地

東京事務所 東京都港区新橋5丁目15-5交通ビル5F
TEL 03-6721-5430

大阪事務所 大阪市中央区道修町3丁目2-5
日本バルク薬品第2ビル3F-D TEL 06-6232-1533